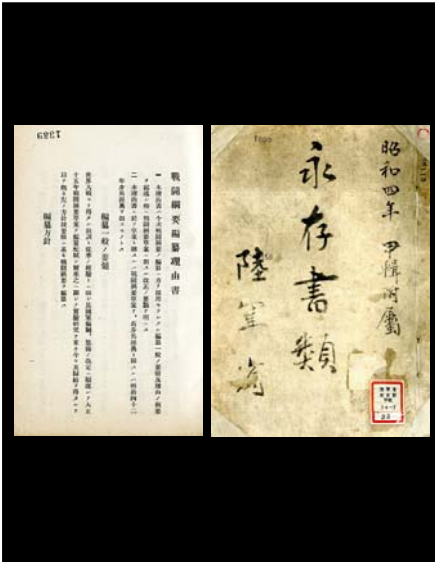


平成25年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>はやし</sup> <sup>せんじゅうろう</sup> 林 銑十郎 1876～1943年 》  
—石川県出身の陸軍大将—



**戦闘綱要編纂理由書**（登録番号：陸軍省-大日記甲輯-S4-8-23）

林銑十郎大将は、明治29年11月、陸軍士官学校（8期）を卒業後、朝鮮軍司令官、陸軍大臣、内閣総理大臣などの要職を歴任しました。この史料は、昭和4年2月制定の「戦闘綱要」について、編纂の方針、要領等について、当時教育総監部本部長であった林中将が、参謀本部との連名で出した「戦闘綱要編纂理由書」です。「戦闘綱要」は、第一次世界大戦に象徴される長期化する作戦様相に対して「速戦速決ノ要求ヲ充足」するため「諸兵種協同ノ戦闘原則」を確立したものです。「包囲殲滅」の高唱や「機動及独断」の推奨などは、昭和3年の「統帥綱領」や「歩兵操典」の改定内容を反映したものでした。その後「戦闘綱要」は、「陣中要務令」とともに「作戦要務令」（昭和13年9月制定）に整理統合されます（他に「偕行社記事第655号附録」登録番号：中央-偕行社記事付録-92）。



**朝鮮軍司令官の独断出兵**（登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-541）

「朝鮮軍司令官ノ独断出兵ト中央部ノ之ニ対シテ執レル処置ニ就テ」（昭和6年12月20日付）と題するこの史料には、昭和6年9月18日の満州事変勃発に際し、当時朝鮮軍司令官であった林中将が、参謀総長の命令を待たずに混成第39旅団を満州へ越境、派遣した経緯などが記されています。これによれば、林中将は関東軍からの重ねての増援要請に対して、「義ニ於テ忍ヒス在新義州混成旅団ヲ越江出動セシム」、「命令ヲ奉スルコトヲ得サル結果ニ陥レシコトニ就テハ誠ニ恐懼ニ堪ヘス」と参謀総長に報告しています（9月21日付「朝参報第60号」）。その後、朝鮮軍司令官の独断出兵について参謀本部内で審議されましたが、「朝鮮軍司令官ノ処置ハ大権ヲ干犯シタルモノニ非ス」との結論に達しています（他に「神田正種中将回想録」登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-1046）。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）  
外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>